

## 京大院生・金子さん(文星芸大 付高出身)

# ノーベル賞行事に参加

## 「一生の糧」研究に力

文星芸大付高出身で京大大学院工学研究科(電子工学専攻)の金子光顕さん(24)は宇都宮市出身。12日、ノーベル賞授賞式に合わせスウェーデンで開催された「ストックホルム国際青年科学セミナー」(SIYSS)に参加した。19日には都内で帰国報告会が行われ、金子さんは「セミナー参加」メンバーとの出会いは刺激になった。一生の糧になっていくと思う」と、さらに研究に力を入れる思いを強くしていた。

(鈴木憲一)



金子光顕さん

SIYSSはノーベル財団の協力で、スウェーデン青年科学者連盟が主催している。日本からは国際技術科学財団が毎年、公募で2人の学生を派遣。今年も金



ノーベル物理学賞を受賞した天野浩教授(左から2人目)と金子さん(同3人目)は9日、ストックホルム(国際科学技術財団提供)

子さんと、同じ京大大学院の女子学生が選ばれた。セミナーには米、独、ロシアなど18の国と地域の24人が参加。授賞式など一連のノーベル賞公式行事に同席した。授賞式では日本人の受賞に「同じ日本人として誇りに思った。あの場にいられて幸せだった」と金子さん。各国の受賞者と交流する機会もあり「米国の

化学賞受賞者」エリック・ベツィグ博士の『リスクを取る』『挑戦を諦めてはいけない』という話の感銘を受けた」と振り返った。セミナー独自のプログラムもあり、地元の高校生対象の発表会では、自分のテーマである窒化アルミニウムガリウムについての研究成果を英語で紹介。他国の参加者から「難しいテーマを分かりやすく説明していた」と評価されたという。宿泊先では米、メキシコ、台湾の学生と同部屋になり、全体討論なども実施。夕食時の交流会では、すしを振る舞い「おいしいと言

われた。苦労して(材料を)持っていたかいがあった」と笑顔で振り返った。将来については「研究に携わっていききたい。海外にももっと出ていきたい」と夢を広げている。